

18区は、地域の絆を大事にしています!!

峰山町の市街地の中で、最東端に位置する18区を紹介します。小西川、前田川、風呂（ぶろ）川の3つの河川が流れ、北は昔、間人（たいざ）街道であった杉谷旧道。南は、峰山駅と丹後文化会館のある扇谷（おうぎだに）。東は桜内踏切の付近。西は前田川沿いにある京都府職員寮、風呂川沿いにあるハローワークまでが区内です。扇谷地区の一部に丹波地番がありますが、行政区は18区です。個人世帯数は182あり、他に17の事業所があります。峰山町の37区中、7番目に大きな区である18区は、「何でも揃っている住み良くて、人が集まる区」です。

「住み良さ」では、京都丹後鉄道峰山駅からの鉄道移動や、路線・高速バスでの移動も大変便利です。スーパーマーケットや病院もあり、生活環境は抜群。町内では少なくなりましたガソリンスタンド、飲食店もあります。

「人が集まる」は、丹後の文化の中心・丹後文化会館、学習の拠点・峰山図書館、京丹後市全域を所轄する税務署、ハローワーク、労働基準監督署、京丹後市商工会本所も18区内にあり、多くの市民の方が来られる地区です。

しかし、他地区と同様に、少子高齢化が進んでいます。高齢者夫婦のみ、高齢者単独世帯の増加も見られます。そこで、平成27年から隣組の再編に取り組みました。2年の議論を経て、14組あった隣組を、平成29年4月から10組に再編成し、隣組機能の充実を目指しています。

地域の皆さんの意見を取り入れながら、小さなことでも改善・改革に積極的に取り組み、誰もが元気で、助け合いの気持ちを大切にしている18区です。



WELCOME 18区



ふるさと わがまち わが地域

峰山町 18区

18区はみんなが主役です

平成29年8月、13年ぶりに文化会館芝生広場を会場にして、「18区区民の集い」を開催しました。多くの区民にボランティアとして運営に協力していただきました。区民200人が参加、模擬店・民踊・よさこい・カラオケ大会で大いに盛り上がりしました。

また、当日は地蔵盆も同時開催しました。ゲーム・夜店・クッキー作りにも挑戦、ちょっと変わった地蔵盆に子どもたちも大はしゃぎ。大人から子どもまで、みんなが主役の「18区区民の集い」になりました。

敬老会は、毎年参加者が増えています。皆さんとにかく元気です。アトラクションや、おいしい食事を楽しみ、ビンゴゲーム、カラオケでのど自慢。笑い声が絶えない18区の敬老会です。来年の敬老会も、多くの皆さんに参加していただきたいと思っています。



いつまでもお元気で。「29年敬老会」



クッキー作りでいつもと違う「地蔵盆」



みんなの協力で大成功。「区民の集い」



「区民の集い」はみんなが主役です



平成28年8月の防災訓練の際、区民の皆さんから地域の防災マップ作成の要望を受け、平成29年2月「18区安心・安全マップ」を作成しました。

地区内の消火栓、消火栓ボックス、河川の井堰（いせき）板の設置場所、AED装置設置事業所も表示しました。降雪時には、近隣住民で消火栓の除雪作業を行うなど、日頃から防火・防災意識を高めています。

平成30年1月には、LED防犯灯（4灯）を新規設置しました。防犯対策にも積極的に取り組んでいる18区です。



18区は安心安全の地域づくりをします



18区版 こころ旅 (思い出の場所を訪ねて)



丹後文化会館建設前の扇谷グラウンド



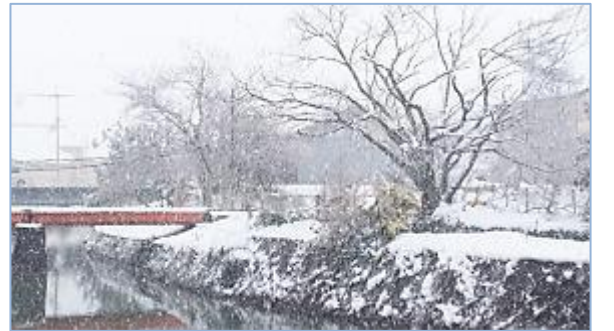
少年野球の草分け、峰山クラブ

扇谷グラウンドと「峰山クラブ」
平井公彦（京都市在住）

京都府丹後文化会館が建設される1980年（昭和55年）までの間、数年間でしたが、そこに野球グラウンドがあったことを記憶する人は少ないと思います。山を切っただけのものなので、石はゴロゴロ、草はポウポウ、もちろんバックネットもなければ、マウンドもありません。当時、野球好きの子供たちのために地域の皆さんによって手づくりのグラウンドが整備され、小学校6年生から中学校3年生まで夢中で野球の練習に励みました。部活ではなく、当時ではまだ珍しかった少年野球チームとして。その名も「峰山クラブ」。

その頃の懐かしい記憶を辿れば、一番の思い出は全京都学童野球選手権中学の部で郡部のチームとしては、快挙となるベスト4進出。新聞でも取り上げられ本当に嬉しかったことを覚えています。準決勝は西京極球場。早朝から貸し切りバスに乗り、道中では丹波町の「やまがた屋」で入場行進の練習までしました（笑）。残念ながら試合には敗れましたが、今でも西京極の土の感触は忘れられません。

当時、熱心にご指導いただいた大丸製菓の山本富三監督をはじめ、支えていただいた地域の皆さんに改めて感謝したいと思います。



雪の中、春を待つ小西川橋梁と桜



春爛漫 満開の桜

桜に感謝

（小西川南側堤防で小西川橋梁の傍ら）

寺田春美（峰山町五箇在住）

峰山駅から北に5分ほど歩いた小西川沿いの京都丹後鉄道小西川橋梁のすぐ横に、その桜の木があります。

今から60年くらい前のその場所には、バス会社の修理工場があつて、たびたび火災が発生していました。火災でドラム缶が爆発した時の光景は、今でも鮮明に私の脳裏に焼き付いています。爆発がおこると、小西川の対岸の私の実家では窓ガラスが割れるなどの被害が出ましたが、幸いにも工場の従業員、近所の皆さんにけが人が出るような被害は発生しませんでした。数度の火災の後、近所の「竹藤屋」旅館の女将さんが「二度とおきないように」と今の場所に桜の苗木を植え、お地蔵さんを祀られたそうです。

その後は、町内に大きな火災も事故もなく、きっと桜の木とお地蔵さんが18区を守っていてくれていたんだと感謝の気持ちで一杯です。

60年前の小さかった桜の苗木は、今では葛も巻きつく古木となっています。風雪にも耐えて地域を見守ってくれたその姿には威厳すら感じられるようになりました。そして、春になれば、今でも樹々の枝先まで花が咲き誇り、私たちが和ませてくれます。

これからも、峰山を代表する桜の木として、地域の皆さんに愛され、次の世代も大切に見守っていただきたいと思います。



懐かしい峰山駅



手機の織機をイメージした現在の峰山駅

峰山駅冬物語

井上富美代（京丹后市網野町在住）

主人の定年を機に、丹後に帰ってきた。主人の実家は、網野町。同じ丹後でも、私が生まれ育った峰山とは違って、風の強さにはびっくりさせられる。

11月半ば、空は暗くて寒い、それに強い風。気分は沈んだ。子どもの頃、「冬」の楽しみはなんだっだろうと思つた時、思い出されるのは、昭和30年代後半の大晦日の峰山駅。京都から帰省してくるおじ家族を、雪道を歩いて迎えに行つた。

我が家のテレビの映りが悪いのは、電線に積もった雪のせいだと思ひ込んでいたが、駅のテレビは「紅白歌合戦」がきれいに映っていた。駅の壁には大きな牛市の油絵、売店も開いていて、ストーブが暖かった。

京都からの最終列車は、21時30分。迎えに来ている人、汽車から降りてくる人で、駅は途端に賑やかになった。たくさんの乗客の中からおじ家族を見つけた時の喜びは今でも忘れることが出来ない。

今では、遠く離れた子供たちには、「お正月は雪が降るから来なくてもいいよ」とメールする。

